

就労準備過程利用者の状況変化の 見える化ツールについて

～KPSビジュアライズツール～

一般社団法人京都自立就労サポートセンター
高橋 尚子

一般社団法人 京都自立就労サポートセンター

2010.11 京都府パーソナルサポートセンターとして設立

2012. 4 京都自立就労サポートセンターに名称変更

10 北部サテライトを設置

2015. 3 法人格を取得し、一般社団法人京都自立就労サポートセンターに名称変更

2015.11 無料職業紹介事業許可 取得

わたしたちは、すべての人が笑顔で働くことのできる社会づくりをめざしています

☆働きたい気持ちはあるものの一歩が踏み出せない、社会生活を送るうえでの不安から求職活動が進められない方たちに、個々の状況に合わせて伴走型の支援で継続的に、相談から就職、定着までの総合的な就労支援を行います。

☆京都府きょうと生活・就労おうえん団や、様々な機関が連携したネットワーク機能を構築し、誰もが参加しやすい地域づくりを目指します。

<https://www.kyoto-ps.com/>

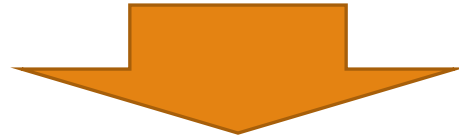


TS59, GN25の概要

これまで就労準備支援事業では就職の 実績が評価の中心

就労準備段階の指標となる日常生活面や社会生活面での変化は、大きく取り上げられてこなかった。

就労準備支援事業の利用者の方々の多くは複合的かつ深刻な課題を抱えておられるため就職までに時間がかかる。就職の実績に注目するあまり利用者の方々の小さな変化を捉えるという視点が弱かった

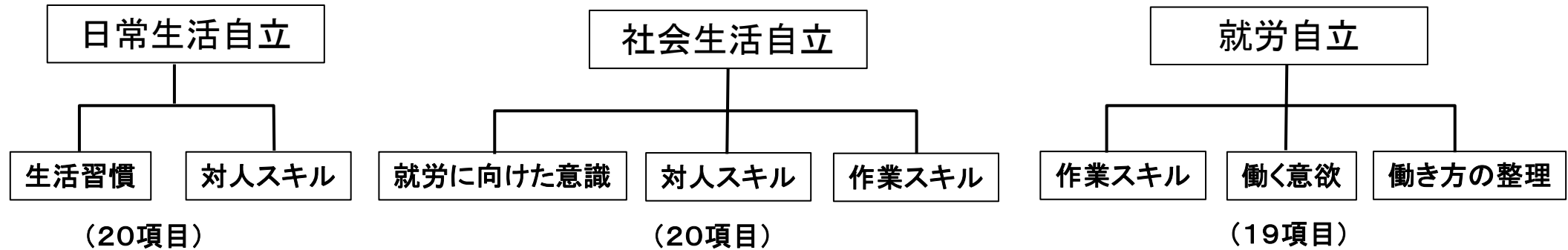


そこで新指標、TS59とGN25を開発

新指標は、就労準備支援事業の成果を単に就職実績だけで捉えず、利用者の日常生活、社会的能力、就労意欲における変化から総合的に評価

TS-59セルフチェックシート

❖ シートの構成



TS59セルフチェックシートは3つの大分類から、さらに中分類に分け、幅広い59の項目で構成

❖ シートの特徴

- 本人が回答するので、支援員の主観的な考えに囚われない！
- 利用者の状況を把握するための情報収集(アセスメント)に役立つ！
- 本人の気持ちを問う項目が多いので、外見だけでは分からない内面を知ることができる！

❖ シートの結果を見やすく集約化

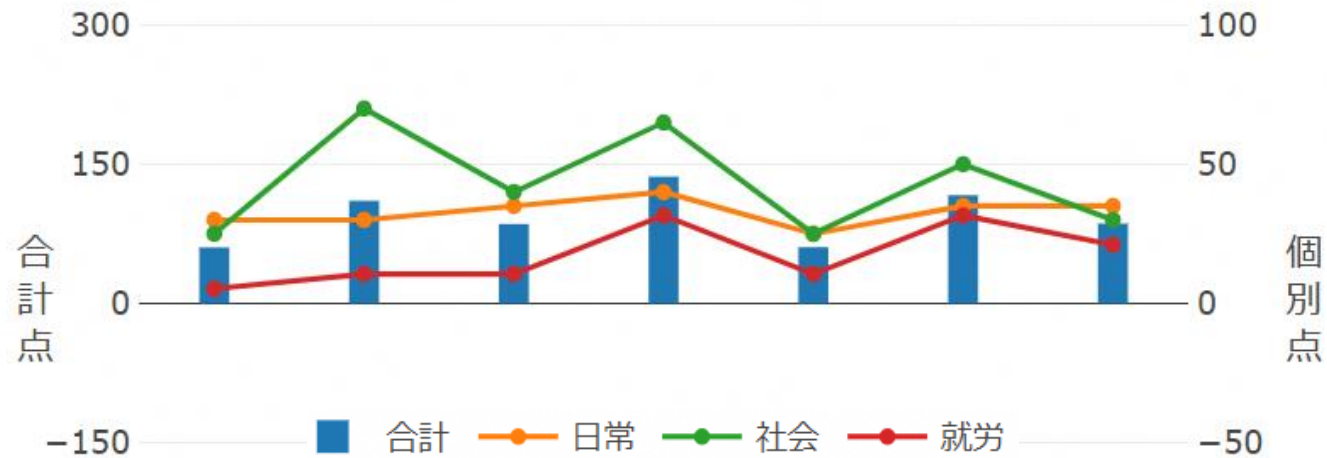
赤い☑をたどれば、各回の変化が一目でわかる。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
1 起床・就寝時間	1	1	1	1	1	1	1
<input type="checkbox"/> 起床・就寝時間が一定している	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
<input type="checkbox"/> 起床・就寝時間は一定していないが、一定にしようと努力している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 緊張や不安なことがあると眠れないことがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 食事	0	-1	1	0	1	1	-1
<input type="checkbox"/> バランスの良い食事が常にとれている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	☑	<input type="checkbox"/>	☑	☑	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> バランスの良い食事をとろうと努力しているが、とれていない	☑	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	☑	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 偏った食事になることが多い	<input type="checkbox"/>	☑	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	☑
3 約束	-1	-1	0	0	1	1	-1
<input type="checkbox"/> 決められた日時（人との約束や、面談・プログラムなど）に常に行くことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	☑	☑	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 決められた日時（人との約束や、面談・プログラムなど）に時々行くことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	☑	☑	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 決められた日時（人との約束や、面談・プログラムなど）に行くことができない	☑	☑	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	☑
4 事前連絡	-1	0	1	1	1	1	0
<input type="checkbox"/> 人との約束や、面談・プログラムなどに欠席・遅刻する場合、常に事前連絡ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	☑	☑	☑	☑	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 人との約束や、面談・プログラムなどに欠席・遅刻する場合、時々事前連絡ができない	<input type="checkbox"/>	☑	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	☑
<input type="checkbox"/> 人との約束や、面談・プログラムなどに欠席・遅刻する場合、事前連絡ができない	☑	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 身体の健康	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1
<input type="checkbox"/> 常に良好な体調を保っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 健康に気をつけているが、体調を崩すことがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 健康に気をつけておらず、たびたび体調を崩す	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
6 心の健康・ストレス	1	1	0	1	0	0	1
<input type="checkbox"/> 不安や焦りはなく、気分も落ち込まない	☑	☑	<input type="checkbox"/>	☑	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	☑
<input type="checkbox"/> 不安や焦りがあっても、気分が落ち込むほどではない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	☑	<input type="checkbox"/>	☑	☑	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 常に不安や焦りがあり、気分が落ち込んでいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※KPSビジュアライズツールの個人データエクセル「TS59 セルフチェックシート 結果」

❖ シートの結果をグラフで表示

TS59は折れ線グラフで日常生活自立、社会生活自立、就労自立を表示し、棒グラフで合計点を表示している。



	項目	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
通常点	日常生活自立(20)	6	6	7	8	5	7	7
	社会生活自立(20)	5	14	8	13	5	10	6
	就労自立(19)	1	2	2	6	2	6	4
	トータル(59)	12	22	17	27	12	23	17
100点 換算	日常生活自立	30.0	30.0	35.0	40.0	25.0	35.0	35.0
	社会生活自立	25.0	70.0	40.0	65.0	25.0	50.0	30.0
	就労自立	5.3	10.5	10.5	31.6	10.5	31.6	21.1
	トータル	60.3	110.5	85.5	136.6	60.5	116.6	86.1

GN-25評価シート

❖ シートの構成

評価の分類	評価の詳細	評価の指標
日常生活自立	生活習慣の改善	生活リズムの改善
		身だしなみ
	心身の健康状態の改善	体力・健康の改善
		ストレスコントロール
計画性の向上	計画づくりや目標設定の改善	
社会生活自立	コミュニケーション能力の向上	コミュニケーション能力の向上
	社会的なつながりの改善	知人・友人関係の改善
	チームワーク	状況把握力の向上
		対人スキル
自己肯定感・自尊感情の向上	自己肯定感・自尊感情の向上	
就労自立	就労意識の向上	勤労意欲の向上
		働く自信の向上
		実行力の向上
	求職活動状況の改善	求職活動状況の改善
	就労のための知識や技能の獲得、職業選択機会の拡大	選択機会の拡大
知識や技術の向上		

GN25評価シートは3つの評価の分類に分けられ、それらを10の評価の詳細、さらに16の評価の指標に分け、25の設問項目で構成

❖ シートの特徴

● 本人と支援員双方が回答するので、本人と支援員の差から、自己認識の課題がわかる！

● 現状の改善に向けた自主的な取組や積極性を評価することで、何が不足しているかを可視化できる！

● それぞれの項目について、現在のレベルがどの程度なのかを、把握することができる！

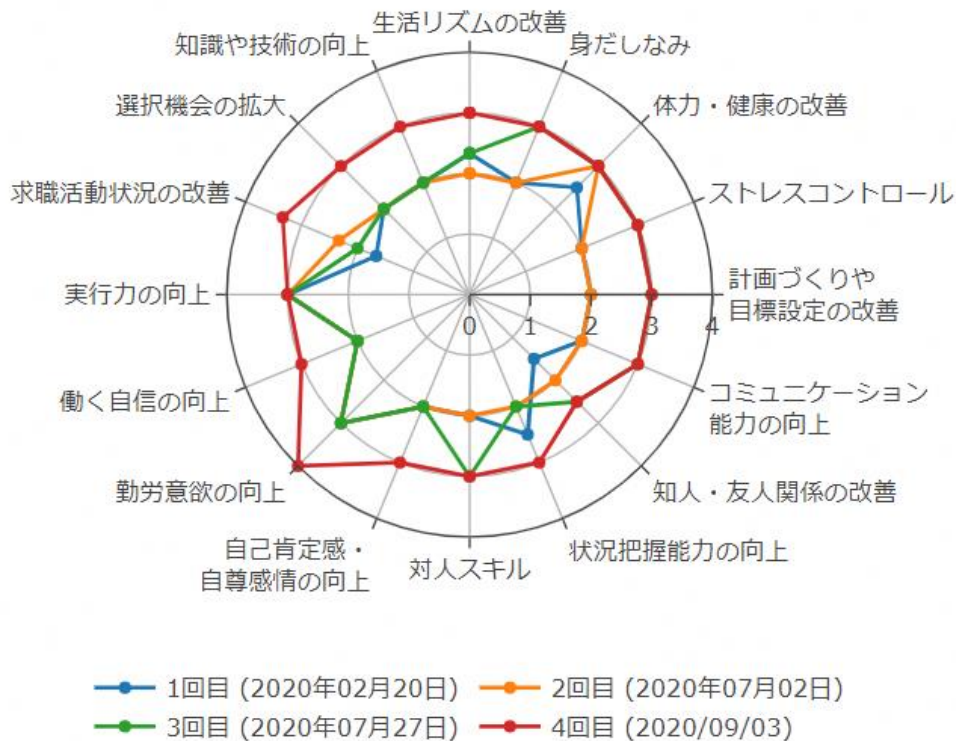
❖ シートの結果を見やすく集約化

前回と比べて上がったのか、下がったのかが矢印で表示される。

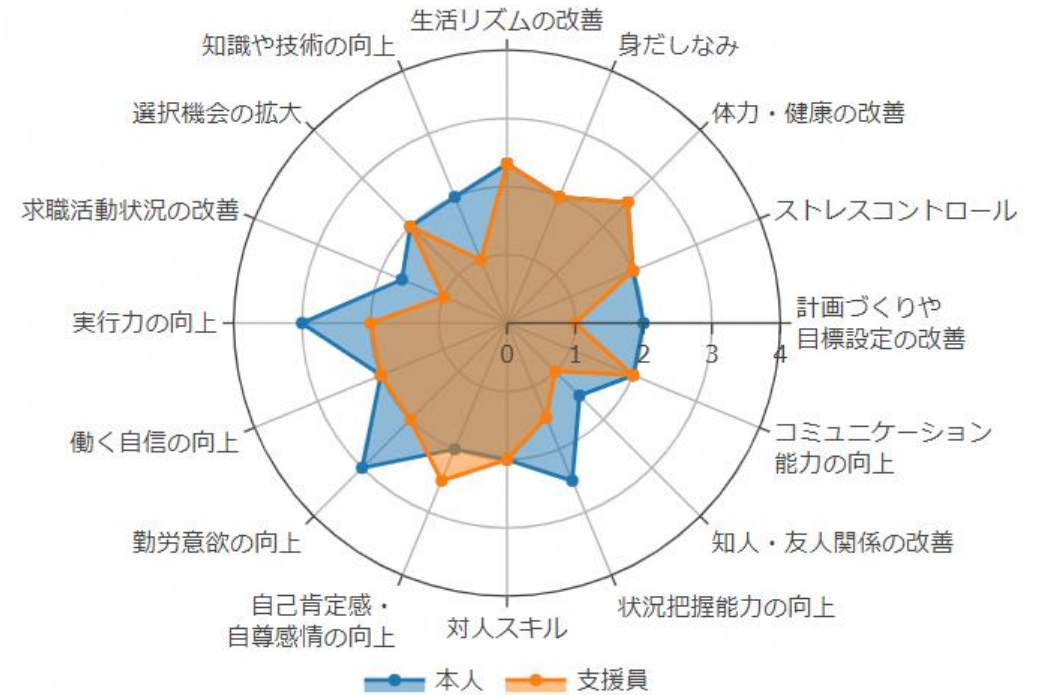
		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目				
生活習慣の改善	生活リズムの改善	2.0	↘	1.3	↗	2.0	↗	3.0	↗	3.7
	身だしなみ	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	↗	2.0
心身の健康状態の改善	体力・健康の改善	3.0	↘	2.5	↗	3.0	-	3.0	↗	3.5
	ストレスコントロール	3.0	-	3.0	-	3.0	-	3.0	-	3.0
計画性の向上	計画づくりや目標設定の改善	4.0	↘	2.0	-	2.0	↗	3.0	↘	2.0
コミュニケーション能力の向上	コミュニケーション能力の向上	2.5	↘	2.0	-	2.0	-	2.0	↗	3.0
社会的なつながりの改善	知人・友人関係の改善	1.0	-	1.0	↗	2.0	↘	1.5	-	1.5
チームワーク	状況把握能力の向上	2.5	-	2.5	-	2.5	↗	3.0	-	3.0
	対人スキル	3.0	-	3.0	-	3.0	-	3.0	-	3.0
自己肯定感・自尊感情の向上	自己肯定感・自尊感情の向上	1.5	-	1.5	-	1.5	-	1.5	-	1.5
就労意識の向上	勤労意欲の向上	1.0	↗	2.0	-	2.0	-	2.0	↗	3.0
	働く自信の向上	2.0	-	2.0	-	2.0	-	2.0	-	2.0
	実行力の向上	2.0	↗	3.0	-	3.0	-	3.0	-	3.0
求職活動状況の改善	求職活動状況の改善	1.0	↗	1.3	-	1.3	↗	1.7	↗	2.0
就労のための知識や技能の獲得、職業選択機会の拡大	選択機会の拡大	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	↗	3.0
	知識や技術の向上	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0
日常生活自立合計		13.0		9.8		11.0		13.0		14.2
社会生活自立合計		10.5		10.0		11.0		11.0		12.0
就労自立合計		8.0		10.3		10.3		10.7		14.0
総合計		31.5		30.2		32.3		34.7		40.2

※個人データエクセルの「GN25本人評価結果・支援員評価結果」

❖ シートの結果をグラフで表示



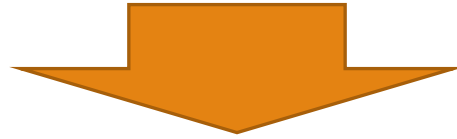
本人の各回評価



本人と支援員の評価の比較

TS59とGN25を活用する目的

TS59, GN25から何が分かるか？



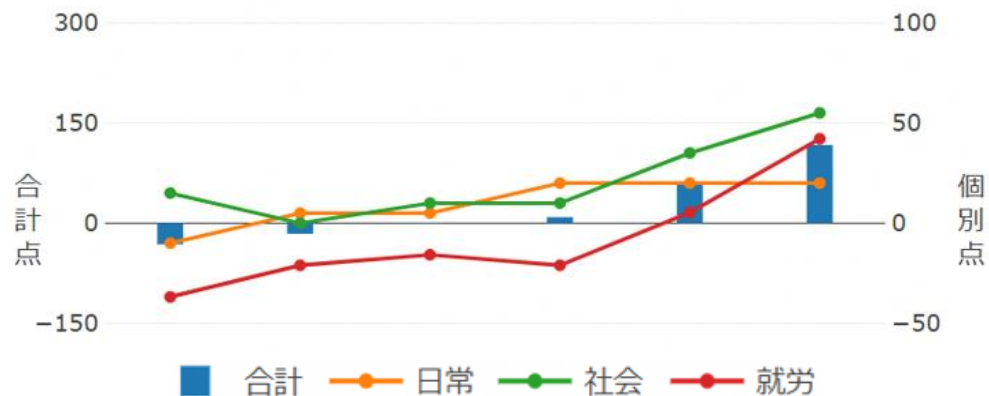
1. 利用者の状態の変化、支援の効果等を継続的に把握できる。
2. 支援開始時の利用者の日常生活自立・社会生活自立・就労自立の状況と課題を把握し、その時々の利用者の状態に合った支援計画(課題・長期目標・短期目標・期間・支援内容など)の設計に有益な情報を得ることができる。
3. プログラム参加前後の変化を比較することで、事業者は実施したプログラムの効果が利用者に現れているか検証を行うことができる。
4. 利用者の自己評価と、支援員等による評価が著しく異なる場合、利用者が自らの状態を正しく認識できていない可能性を把握できる(極端な楽観主義、自信過剰、極端に自己肯定感が低いなど)。

活用方法を支援事例で解説

小さな変化をグラフ・数値として可視化することができる

事例① (30代 男性) 就労準備支援事業利用期間: 7か月

高校を卒業後就職したが、職場の人間関係が原因で離職してからは、18年間就職活動もしていない。父親が亡くなり、将来を心配した母親が相談に来たことがきっかけで、支援につながった。本人は「生きているのがしんどいから、いつ死んでもいい。」と、物事を常に悲観的に考えている様子であった。



生活リズムが整っておらず、プログラムを欠席することが多かった。悩み事があると体調不良になるし、自分を卑下する発言も目立つ。



欠席しながらも参加を継続することで、食事内容や就寝起床時間、健康管理を意識し始めるようになり、生活リズムが整い、日常生活に改善がみられた。一方で「質問をする」などのコミュニケーションや共同作業について努力するがうまくできないと実感するなど、社会生活面で変化があった。



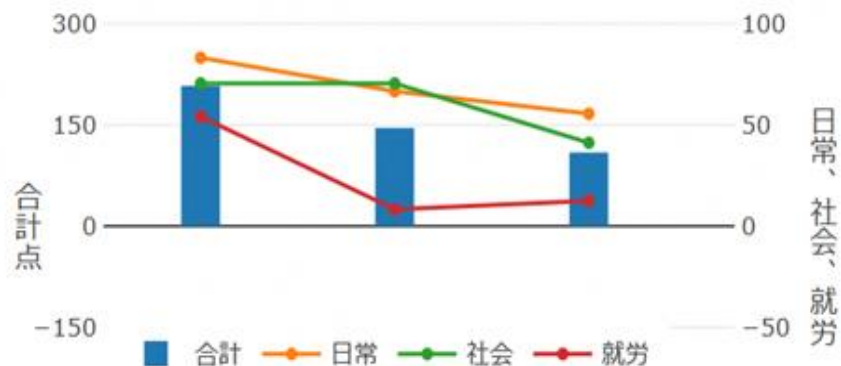
体調は万全ではないが、日常生活は安定している。就労体験やものづくりワークショップなどを通じて、これまで苦手だった、人に質問することや、共同作業も問題なくでき、途中で投げ出すことなく、最後までやり遂げる事ができるなど、就労に向けた準備は順調に進んでいるが、まだ不安の方が大きく、働く意欲の向上とまでは至っていない。

	項目	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
通常点	日常生活自立	-2	1	1	4	4	4
	社会生活自立	3	0	2	2	7	11
	就労自立	-7	-4	-3	-4	1	8
	トータル	-6	-3	0	2	12	23
100点 換算	日常生活自立	-10.0	5.0	5.0	20.0	20.0	20.0
	社会生活自立	15.0	0.0	10.0	10.0	35.0	55.0
	就労自立	-36.8	-21.1	-15.8	-21.1	5.3	42.1
	トータル	-31.8	-16.1	-0.8	8.9	60.3	117.1

支援方針を検討する際に役立つ

事例②(50代 女性) 就労準備支援事業利用期間:9か月

若いときにホテルの客室清掃やウエイテスの仕事をしていたけれど、結婚を機に退職してからは専業主婦だった。2年前、夫が病気になり自宅で介護しているが、貯金が少なくなってきたので生活に不安を抱える。ヘルパーが来てくれる日を利用し、少し働いてはと相談員から言われたが、ブランクが長く自信がない。



	項目	第1回	第2回	第3回
通常点	日常生活自立	15	12	10
	社会生活自立	12	12	7
	就労自立	13	2	3
	トータル	40	26	20
100点 換算	日常生活自立	83.3	66.7	55.6
	社会生活自立	70.6	70.6	41.2
	就労自立	54.2	8.3	12.5
	トータル	208.1	145.6	109.3

2週間の連続プログラムや農作業体験などに参加された。作業に対する理解や進め方など、特に問題は無く、いつも明るい表情だったため、支援員はブランクは気にせずに直ぐに就労が可能と考えていた。

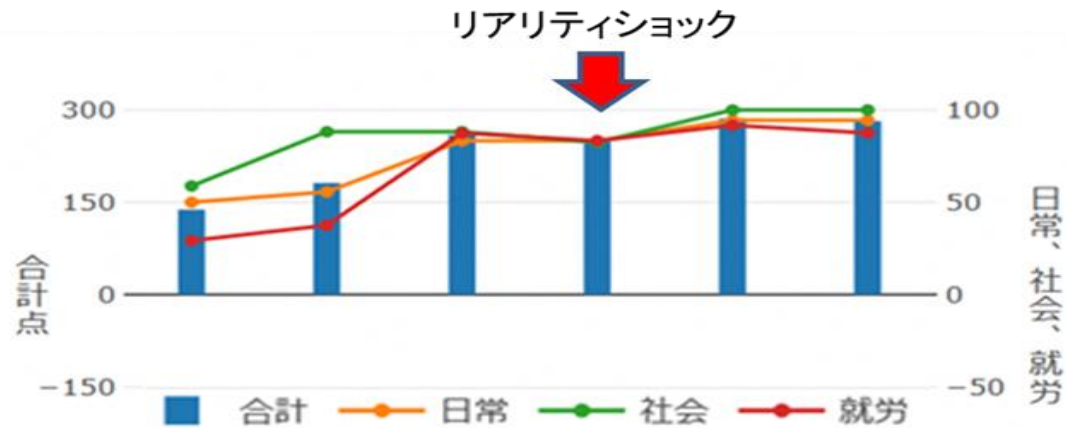
しかし、本人は、家族の介護や、自分が不在時に夫に何かあったらどうしようと心配し、心身共に疲れ切っている状況であった。

本人の普段の様子からだけでは知る事ができない情報を得ることができるので、アセスメントツールとしても有効である。

リアリティショックを受けているかがわかる

事例③(20代 女性) 就労準備支援事業利用期間:10か月

大学三回生の時に体調不良が原因で通学できなくなり2年休学した後に退学した。退学と同時に、高校生の時から7年間続けていたスーパーでのアルバイトも辞めた。体力に自信がなく、自分の思いが人に伝えられないなど働き続けることに大きな不安がある。



支援開始時は常にうつむきがちで、顔色も悪く、度々体調を崩すことがあり、通所が安定しなかった。

徐々にセミナーやものづくりワークショップなどの回数や時間を増やし、連続プログラムに参加することで生活リズムを整え、日常生活の改善につながった。

その後、就労意欲も向上し、1か月間の就労体験に参加するまでに至った。

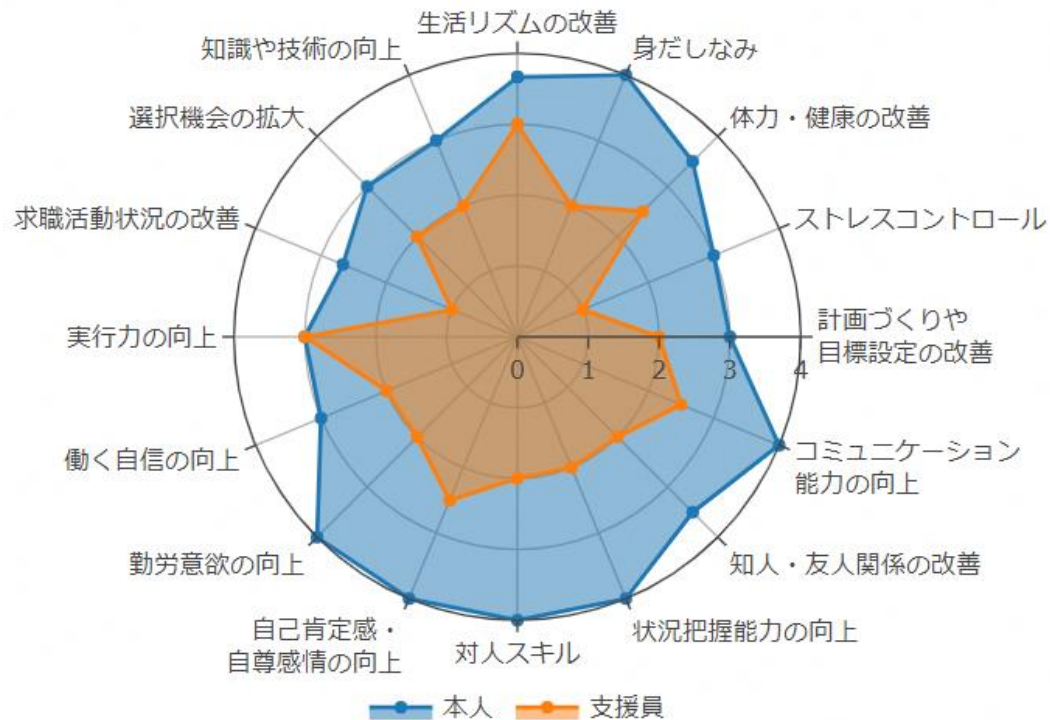
就労体験参加中の評価でリアリティショックのサインが見られ、本人と体験先事業所への助言を行うことができた。

	項目	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
通常点	日常生活自立	9	10	15	15	17	17
	社会生活自立	10	15	15	14	16	17
	就労自立	7	9	21	20	22	21
	トータル	26	34	51	49	55	55
100点換算	日常生活自立	50	55.6	83.3	83.3	94.4	94.4
	社会生活自立	58.8	88.2	88.2	82.4	100	100
	就労自立	29.2	37.5	87.5	83.3	91.7	87.5
	トータル	138	181.3	259	249	286.1	281.9

利用者の自己認識に課題があることが分かる

事例④(40代 男性) 就労準備支援事業利用期間:6か月

家族で協力して病気の母の面倒をみながら働いていたが、職場で感情のコントロールがうまくできず、トラブルを起こしてしまいそうだったので3年前に退職した。父親から早く就職するように言われてはいるが、自分さえその気になればいつからでも働き出せると思っている。ただ、常にイライラする性格で、家族の間でも感情的なことを言ってしまうので、また仕事に就いても上手くいかないのではないかと心配がある。



支援開始当初から常に自己評価が高く、他責思考があり、他者と折り合いをつけることが難しい事は確認できていたが、本人の評価と支援員の評価で、大きな差があることがグラフを見比べると分かる。

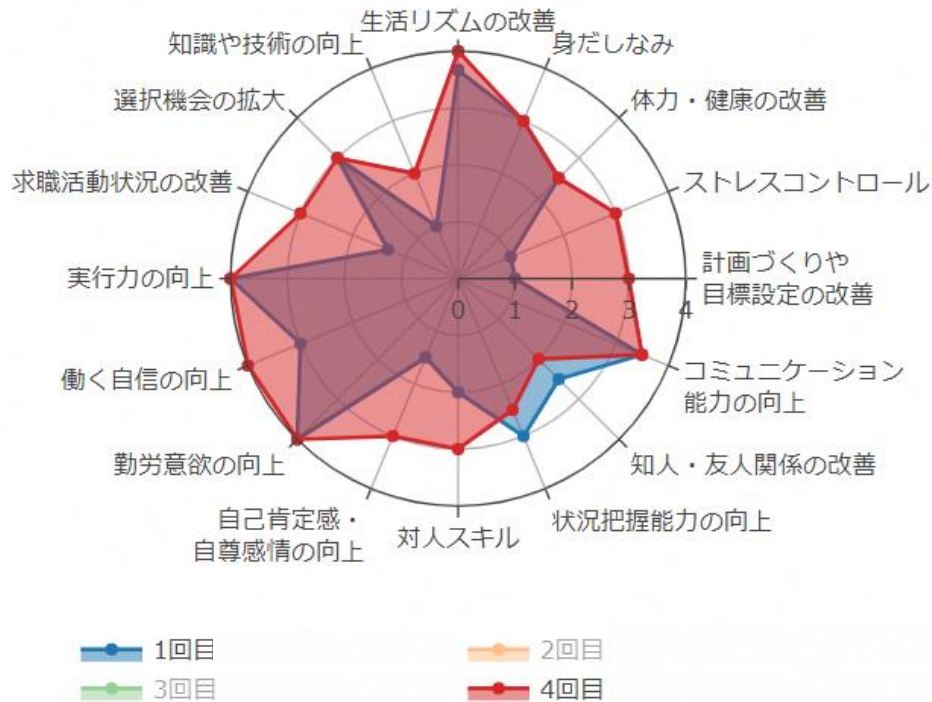


- ①評価の基準「ものさし」の意味合いを十分に理解できていない、もしくは自分の現状を俯瞰して捉えることができない。
- ②自分の能力・レベルを正しく(不足していること)認識できていないと、「課題」が見つけられないことから改善するという意識が持てない。

利用者の状況や課題に応じた支援ができる

事例⑤(10代 女性) 就労準備支援事業利用期間:6か月

通信制高校に在学中に就職活動が進まず、そのまま卒業した。卒業と同時に、3年間続けていたスーパーでのアルバイトも辞めた。いろんなことに自信がなく、不安と緊張でパニックになる。人前で食事ができず、緊張すると手の震えが止まらず申込用紙への記入ができないほどであった。



初めての場所や体験、人前で話す事に対して等に苦手意識が強く、過度なストレスでプログラム参加中に過呼吸を起こすこともあった。



- ①本人に大きなストレスがかからないよう配慮しながら、プログラムを通じて様々な場へ参加し、徐々に初めての場所でも安心できることを体感できるよう支援を行った。自信をつけることでストレスコントロールが改善された。
- ②自己肯定感、自尊感情が向上することで気持ちの安定が見られ、計画づくり・対人スキル・求職活動状況などほかの項目でも変化・改善が見られた。

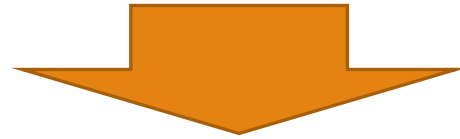
自治体担当者からの メッセージ

KPSビジュアライズツールに期待すること

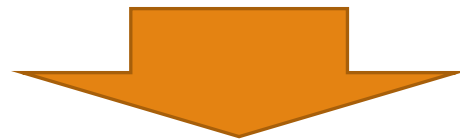
- ・現在実施している事業の評価
- ・支援者の資質とモチベーションの向上
- ・利用者の自己理解の向上

事業評価

利用者に対してどのようなインパクト、変化を与えたかを蓄積できる。



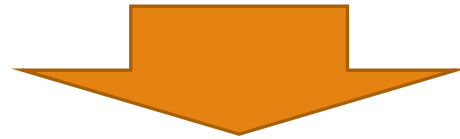
この蓄積したものを分析をすれば、「支援のタイミング」、「利用者の状態像」、「事業の種類や形式」など、変化を生み出したもの（支援内容や事業内容、それ以外の要因など）を可視化できるのではないか。



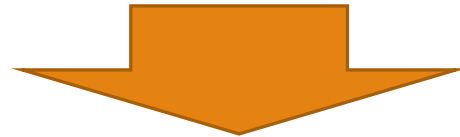
蓄積と分析の結果を活用することで、就労準備支援事業のみならず、そこへ利用者を送り込む自立相談支援事業の振り返りができる。この振り返りの結果が事業評価の1つの観点となるのではないか。

支援員の 資質とモチベーションの向上

利用者の変化を標準様式のアセスメント結果だけではなく、ツールが捉えた変化を支援員にフィードバックできる。



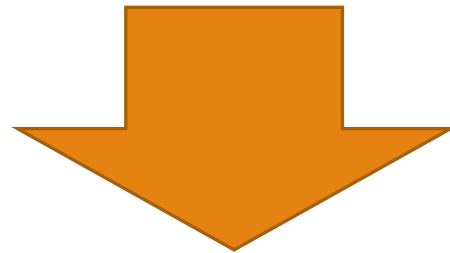
提供している支援の成果をより正確に把握できる。(標準様式のアセスメントシートだけでは捉えきれない変化を捉えられる。)



これを支援員同士で共有することで、研修的な効果も期待できる。また、支援員にとって、利用者を把握(理解)することは、表面上の利用者の(状態の良化・悪化の)動きに惑わされずに支援ができるため、安定した支援が実施できる。

利用者の 自己理解の向上

このツールは利用者自身が回答する必要があるため、自身の状況を振り返る。また、結果を利用者へ返すことで、利用者自身の変化を実感できるのでは？



支援員の評価と利用者の自己理解で食い違う箇所は、他者との認識のズレなので、その理解を進めることも重要となるのでは？

その他のメッセージ

(抜粋)

「(前略)評価指標は、就労準備支援事業の実施において、支援の実践の振り返りを行うとともに今後の支援や事業の方向性を検討する材料として、また事業の成果を客観的に示すうえでも欠かせないツールとなる大きな可能性を秘めているものと考える。」

一般市 主幹

「就労準備支援事業で評価指標を活用すべき理由は大きく三つある。第一に就労の準備が整ったとする適切な判断材料となる点からである。(中略)第二に就労準備支援事業の改善を図ることができるからである。(中略)第三に適切な事業評価ができるからである。(後略)」

中核市 主事

一社) 京都自立就労サポートセンター 令和2年3月発行

「就労準備支援事業利用者に対する支援の評価指標作成・普及に向けた調査研究事業報告書」53-55